

【谷岡氏】 さっき言いました風土で、学校の建物を作ったりするだけではなくて、どうやって風を作るか、学風を作るかというところに専心しましたら、めきめき元気に、活発になりまして、オリンピックで男を相手にしたりとか、かなり活躍しているわけです。女子大生たちが何を言っているかという、こんなに軟弱な男が多くなって、私たちにふさわしい男が少ないと言うわけです。

落ち着いた景観、落ち着いた街と、それは両立するのだろうか。考えてみるとヨーロッパはその落ち着きの中から歴史を作ってきたわけですね。私たちの世代でいうと大学紛争で、体制を壊して革新を作り出し、新たな力が若者から出てきた時代は、実はソルボンヌから火がついたような気がするわけです。ロンドンの話がさっき出ましたけれども、パンクなど新しいウエーブのロックが生み出されたのは、落ち着き払っているはずのヨーロッパからであることに気がつくのです。それはたぶん、二律背反するものではないのだろう。

何がそれを生み出すのかというと、地縁によるコミュニティ、血縁による親戚関係だけではなく、日本にあったいい伝統である企業社会と呼ばれるものです。今は、会社は働きに行く所になってしまっていますが、会社としての一体感、たとえば実業団チームの応援に皆で行くとか、そういうものが従来はあったと思います。大学も一つのコミュニティだと私は考えていて、学生をお客さんにするのではなく、コミュニティのメンバーとしてどう参画させ、関与させるかということを学風づくりの中で一生懸命考えてきたのですけれども、地縁血縁だけではない、新たな“知縁”、つまり大学で知る縁、それから市民の間で“結びつく縁”というものが、新たな“知縁・結縁”関係として出てくる。

別にゴマをするわけではありませんけれど、トヨタ自動車はこの地域の私たちにとっては一つのモデルであり、目標だと思えます。そこに私たちは何を見ているかという、いろいろな幹部に伺っても同じ答えが返ってくるという、そのアイデンティティです。そして、本当にすごいと思うのは、結束力は強いものだけれども、でも個人がくっつきしている社員が多いという部分です。ここは土だけでなく、風ができています。

私たちの周りには様々な社会がある。土地だけではなく、擬

似かもしれないけれども、そういう“結縁・知縁”を築き上げていく中から未来は見てくるのかなと思っています。

【須田氏】 人口問題について話題が出ているので、気がついたことを一言だけ申し上げたい。これから、国土形成計画でも、あるいは地域のブロック計画でも、人口問題は大変重要な問題になるのですね。それによって計画が変わるものだと思います。

今、少子化対策担当大臣というのがいて一生懸命少子化対策に取り組んでいますが、仮に今から急にたくさん子供が生まれても、その人々が社会的存在になるには20年以上かかるということです。今までで人口構造は決まってしまうわけです。途中で10歳以上の人口を輸入しない限り、同じことですね。

今の人口構造のままでいけば、これからの20年間は社会が構成できないような致命的な問題が起こるのです。それを今から考えようとしたら、私は文化論を整理しておく必要があると思います。そして、インフラ論を整理しておく必要がある。なぜかという、発展途上で増える外国人を、計画的に、かつ文化的に受け入れることを考えなければ、おそらく社会が構成できないのではないかと考えるからです。国内の経済構造なり何なりを少子化の構造に改造することをやりながら、そういうふうな全体的な人口対策、文化的な面とインフラの面で人口対策インフラみたいなものがあるかもしれません。そして、外国人を計画的に上手に受け入れたらどんなことがあるのか。それと新しく生まれた人をどうつなぐのか。これを考えないと破綻が来るのではないと思うのです。

20年後というと、私は確実に生きておりません。皆さんもそれぞれ何歳になるかをお考えいただければ、たぶんお元気でない年代になる方が多いと思うのです。そのことを今から考えておかなければいけないのです。どうもそういう考え方が欠落しておおり、非常に心配です。

【神尾氏】 林先生、谷岡先生が言われたことに対して1つだけ。国土形成とか都市づくりには自由ばかりがあっているのではな

くて、たとえば経済的規制はどんどんはずして自由にしていく必要があると思うのですけれど、社会的規制はもう少し強く締めていかないと、今のようマンションの後ろにマンションができるというようなことになる。

ヨーロッパではどこでも、5階建て以上はダメだとか色はこの色だけだとかやっているように、まちづくりにおいては社会的規制をより強化していく必要があるのではないかと。そうでないと国土交通省さんは何もできないことになってくるのではないかと思うのです。

【小出氏】 ありがとうございます。最後に伊藤先生お願いします。

【伊藤氏】 今まで議論されている中で感じたことを3つほど言いたいと思います。

1つは、圏域の議論がされています。これについては、道州制を含めて基本的な議論をしなくてはいけないというのはそのとおりなのですが、圏域を安易に引いてしまうのは非常に危険なのですね。

昨日、私は大阪にいました。大阪で三重県と和歌山県と奈良県の人と近畿整備局と中部整備局の方々と一緒に席だったのですけれど、そこで議論していたのは紀伊半島についてなのですね。

紀伊半島は、関西と中部の境目であるためにほとんど情報がないし、皆さんも関心を持たない。しかし、紀伊半島を中心に右側に中部、左側に近畿を置いた地図を広げて議論しますと、熊野古道は大変有名になりましたが、紀伊半島は日本の精神文化発祥の地なのですね。しかし、そこで何が残っていて、何が問題なのか、ほとんど皆様ご存じないのが現状です。これは中部の問題なのか、近畿の問題なのかというところから始めなければいけないほど、まだ議論されてない。

そういう意味では、圏域をずっと引いてしまうと、多くの場合、圏の縁辺部には人の注意が行かなくなります。人間は社会的動物ですから、帰属意識をもっています。ですから、あなたは中

部の人間ですよと言われると、中部のことには大変関心を持つのですが、その他のことについてはほとんど関心を持たなくなる。それが圏域の縁辺部にもたらず問題なのです。ぜひこのことを十分踏まえながら、これからの圏域づくりをやっていただきたい。これが1つです。

もう1つは、少子高齢化のところで須田先生がおっしゃったので私からは簡単にしますが、私の大学にも中国をはじめとする外国人留学生がたくさん来られています。この人たちが日本の大学で勉強して、大学院まで行くつもりでいるのですね。日本の企業に就職したいと言っているのです。しかし、現実にはなかなか就職口がないという問題があります。須田先生がおっしゃったように日本の即戦力が20年経たないと育ててこないとしたら、その間我々は外国から来る労働者を、特にここはモノづくりですから、モノづくりにはマンパワーが不可欠ですから、それに合致するような人材としてどう育て、社会的に同化させていくか。フランスやドイツのような問題を起こしてはいけないと思っています。そういうための配慮を率先するのは、やはりモノづくりのメッカである中部の役割ではないか。

第3に、そのときにたぶん問題になっていくのは、日本らしさ、日本人としての誇りとか心構えとか心情です。国際化していく過程で日本という国が埋没していつ、消滅してしまうことがないように、文化を土台に据えた地域づくり、国土づくりの精神がこれからの大きな課題だろうと思っています。

コーディネーター総括

【小出氏】 ありがとうございます。

私なりに要約させていただくと、林先生が言われた、この地域は今、最も力を持っている地域である。この地域が日本で一番力を持っているということは、全世界の先進国で一番経

